

令和8年7月31日(金)

報道機関 各位

【令和8年熊本地震】 東京から熊本に向け「救援物資」を搬出 ～「安眠セット」「タオルケット」計 266 箱を熊本へ～

日本赤十字社（本社：東京都港区、社長：清家篤、以下「日赤」）は、令和8年7月28日に発生した「令和8年熊本地震」を受け、発災当日から県の基幹災害拠点病院に指定されている熊本赤十字病院で災害に関連する救急外来の受け入れを開始するとともに、救護班を派遣し、被災された方々への医療救護などの支援を行っています。

こうした支援の一環として、令和8年7月31日（金）、日本赤十字看護大学（東京都渋谷区）の救護倉庫から、日本赤十字社熊本県支部に向けて救援物資を搬出しました。



今回の物資搬出においては、日赤職員4名とボランティアスタッフ6名を含む計12名が参加し、午前9時頃から10時20分頃までの約1時間20分にわたって作業を実施しました。参加者は声を掛け合いながら、バケツリレーのように次々と救援物資を手渡してトラックへ積み込み、息の合った連携で約250箱の救援物資を搬出しました。

搬出した救援物資は、安眠セット166箱（996セット）、タオルケット100箱（1,000枚）です。これらの救援物資は、8月2日（日）8時30分頃に日本赤十字社熊本県支部へ到着し、現地のニーズに応じて被災された方々へ配布される予定です。

日本赤十字社の活動は皆様のご寄付に支えられています。引き続き、被災された方々が一日も早く安心した生活を取り戻せるよう、現地のニーズに応じた支援活動を行ってまいります。

概要

- 作業日時：7月31日（金）午前9時頃から10時20分頃
- 作業場所：日本赤十字看護大学 救護倉庫（東京都渋谷区広尾4-1-3）
- 搬出先：日本赤十字社熊本県支部（熊本県熊本市東区長嶺南2-1-1）
- 到着予定：8月2日（日）午前8時30分頃
- 搬出対応：日本赤十字社職員4名、東京都赤十字救護ボランティア6名を含む計12名
- 搬出物資：安眠セット166箱（996セット）※原則として被災者1人あたり1セットとする
タオルケット100箱（1,000枚）※原則として被災者1人あたり1枚とする



安眠セット

- キャンピングマット
- 枕
- アイマスク
- 耳栓
- スリッパ
- 靴下

など



タオルケット

搬出作業対応者コメント

水上勇輝（日本赤十字社 救護・福祉部 救護課）

被災地では避難所での生活が続いており、十分に環境が整っていない状況もあると認識しています。そのような中で、安眠セットやタオルケットなどの日本赤十字社の救援物資を少しでもご活用いただき、避難生活の環境改善につながれば大変うれしく思います。地震が続く厳しい状況ではありますが、日本赤十字社として被災地のニーズに応えられるよう、引き続き必要な支援を続けてまいります。



瀬川菜緒（東京都赤十字救護ボランティア）

東京からでも被災地の力になれることがあればと思い、今回の活動に参加しました。2009年から日本赤十字社のボランティア活動が続けており、東日本大震災でも後方支援に携わりました。本籍が熊本ということもあり、自分のルーツのある地域のために少しでも力になればと思っています。安眠セットやタオルケットが、被災された方々の避難生活を少しでも快適にし、安心して過ごしていただく助けになれば嬉しく思います。



オフィシャル画像・動画

当日の搬出作業の様子を撮影した写真、および動画を提供いたします。ご希望の場合は広報室へお問い合わせください。

尚、データをご使用の際は、クレジット「©日本赤十字社」を記載願います。

このリリースについてのお問合せ

日本赤十字社 広報室（メディアの方へ） <https://user.pr-automation.jp/jrc>